○　特集　旧村下高野の総合研究　そのⅡ

1　下高野福蔵院墓地の全墓塔調査について

蕨 由美

はじめに

八千代市の北東端の下高野では、千葉県の近世のムラに特有の、「埋葬墓地」と「石塔墓地」とを分けた両墓制（注 1）が近年まで維持されてきた。下高野では、最近まで土葬が行われた埋葬墓地（ラントウバ）が集落外の字大久保の山林にあり、現在は近代的な共同墓地となっているが、集落内の福蔵院境内の墓地は、旧家の「石塔墓地」として、かつての姿のまま大切に管理されている。

ムラの墓地の石造物は、地域の歴史を知る上に重要な資料であるが、多くのムラの共同墓地や菩提寺の境内墓地は、昨今の墓地整理により、昔の姿を再現することが困難になってきている現状である。

当会では、2016 年に八千代市麦丸地区の山林内にひっそりと残された近世の石塔墓地である「セイマイ前」墓地の全墓塔 173 基の調査を行い、その結果を集計分析することにより、その地域に生きた人々の動きや村の成り立ちを把握することができた。（注 2）

今回は、下高野の旧家の墓塔が並ぶ福蔵院境内石塔墓地の調査を実施し、同墓地の全墓塔について調査を行うことになった。（写真 3）

調査は、2018 年 6 月 18 日から 2019 年 3 月 12 日まで 7 回にわたり、蕨由美・畠山隆・村田一男・牧野光男・菅野貞男・鈴木千代・藤村誠枝・宮井雄二・松柴慎吾・菅原賢男・青田博之・斎藤淳・小林詔三・三橋俊一・櫻井マツ子・中島和子の会員が行い、183 基の全墓塔の全銘文・形態・像容などを記録、筆者が入力、集計と分析を行った。

本稿ではその調査データと、分析結果を報告する。

1．福蔵院の概要と境内墓地の構成

今回調査した墓地が所在する正護山福蔵院は、下高野集落内の字山ノ越にあり、佐倉市の千手院の門徒寺で、承応 2 年（1653）の田畑改帳に「寺屋敷二畝十二歩」とあるが、「元和四年」（1618）銘の扁額をもつ菅原神社の別当であったことから、江戸時代初期から続いた寺院であったと推定される（注 3）。

墓地は、先崎への辺田道に南面する境内の東側 15×20m ほどの広場で、中央には不動堂が祀られ、その周囲に整然と墓塔群が並ぶ。北側は台地斜面であったが、昭和 49 年の暴風雨で不動堂もろとも大崩壊し、現在はコンクリート擁壁になっている。その際や、大地震後などに改修が施され、墓石の移動、台石との分離や混在も一部みられる。

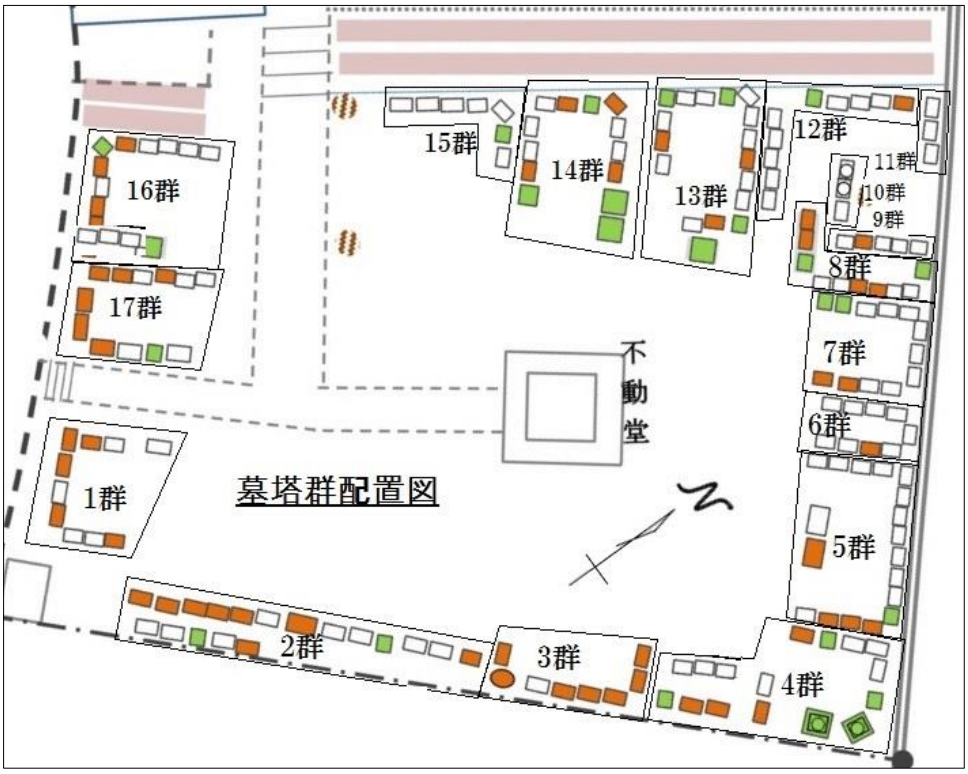
今回は、辺田道からの不動堂への参道入り口右側の墓塔群から左回りに、17 群に分け、群毎に右から墓塔 No.をふって調査を行った。この 17 群は、小澤一雄氏のご教示による

と、各群は表１のように旧家ごとの単位とのことで、墓塔総数は 183 基であった。

表１　福蔵院墓地の構成

群	苗字・家名	基数	最終没年銘	群	苗字・家名	基数	最終没年銘
1	T 石　市兵衛	9	1666～1890	8	O 澤　定右衛門	10	1667～1874
2	T 石　八郎右衛門	18	1656～1859	9	T 石　作十郎（内１基は僧）	5	1716～1829
	T 石　菊右衛門			10	僧（福蔵院住職か）	3	1744～1781
3	M 山　治郎左衛門	9	1671～1771	11	T 石　傳左衛門	3	1817～1862
4	M 山　源右衛門	16	1647～1849	12	M 山　太郎左衛門	10	1659～1838
	M 山　新右衛門			13	T 石　傳右衛門（亀井）	17	1691～1861
5	O 澤　三郎兵衛	18	1641～1815	14	T 石　藤右衛門（新山）	13	1676～1897
	O 澤　与惣右衛門			15	T 石　長兵衛	7	1665～1856
6	O 澤　三右衛門	9	1666～1824	16	T 石　所左衛門	12	1682～1839
7	M 山　治右衛門	12	1667～1841	17	T 石　庄左衛門	12	1669～1867
					総基数	183	1641～1897

図１　福蔵院墓地の墓塔群配置図



２．調査の方法と結果

調査は、全墓塔について、１基ずつ記録カードに、全銘文の翻刻、形態と像容、種字、

法量などを記入して、表 11 の一覧表に整理した。全基数は 183 基で、すべて遺体や遺骨の埋納を伴わない仏式の供養塔であることから、名称は「墓塔」（注 4）とした。

表記は、異体字で印刷用フォントがないものは常用漢字で、種字はカタカナで表した。

時代区分は、1600 年から 1899 年まで 20 年毎に 15 区分し、さらに 60 年毎に、「江戸時代初期・前期・中期・後期・幕末明治・不明」の 6 区分で集計を行った。

区分	江戸初期	江戸前期	江戸中期	江戸後期	幕末・明治
西暦	1600～1659	1660～1719	1720～1779	1780～1839	1840～1899

３．各時代区分別の墓塔の基数と被供養者の人数

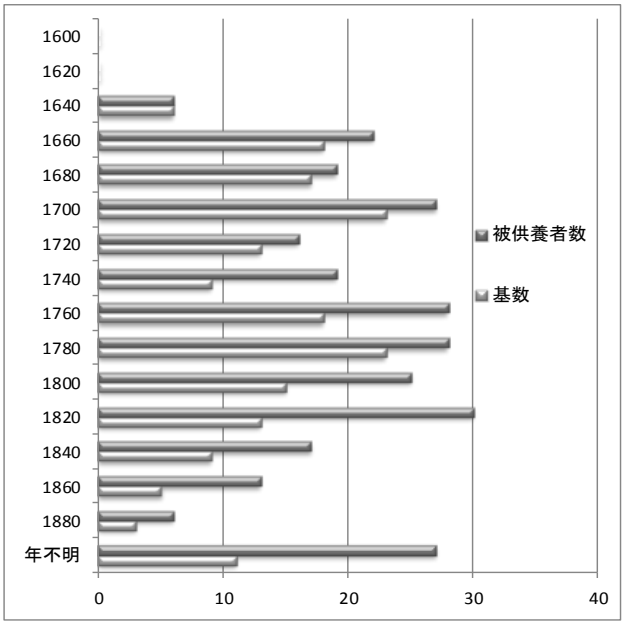
建立年銘のあるのは明治 32 年の 1 基（4 群-No.2）のみで、他の墓塔に建立年銘の記載はないが、建立は三回忌など没後数年以内と推定されことから、被供養者の没年銘を、また複数名併記の墓塔は、その最終没年銘を年銘として分析に用いた。

各時代区分別の墓塔の基数と被供養者の人数は、下記の表 2 の通りとなった。

表2　下高野福蔵院墓地の年代別墓塔数と被供養者数

	年代*	基数a	被供養者数b	b/a
江戸初期	1600	0	0	–
	1620	0	0	–
	1640	6	6	1.0
江戸前期	1660	18	22	1.2
	1680	17	19	1.1
	1700	23	27	1.2
江戸中期	1720	13	16	1.2
	1740	9	19	2.1
	1760	18	28	1.6
江戸後期	1780	23	28	1.2
	1800	15	25	1.7
	1820	13	30	2.3
幕末・近代	1840	9	17	1.9
	1860	5	13	2.6
	1880	3	6	2.0
不明		11	27	2.5
計		183	283	1.5

*最新没年銘の年代区分（20年ずつ）



もっとも古い年銘は、寛永 18 年（1641）年銘の宝篋印塔で、万治２年銘まで江戸初期は６基あり、前期は 58 基、中期は 40 基と減るが、後期は 51 基と増加し、幕末から明治にかけては 17 基とまた減少して、近世の石塔墓地としての役割は終焉する。

また、１基当たりの被供養者数は初期～前期は１名（まれに２名）で個人の供養塔が多いが、中期から２名以上の連記も多く見られ、さらに明治 20 年代に建てられた墓塔

には最大８名の戒名があり、「家の墓」としての性格への変化が顕著にみられる。

被供養者の時代区分毎の総数は、江戸中期前葉1720年代の享保期にいったん減少し、中期後葉の1760年代に増加に転じるが、後期83名中17名は子供で、成人は、前・中・後期共に各六十数名で差はなく、人口変動が少ない時代であったと推定できる。

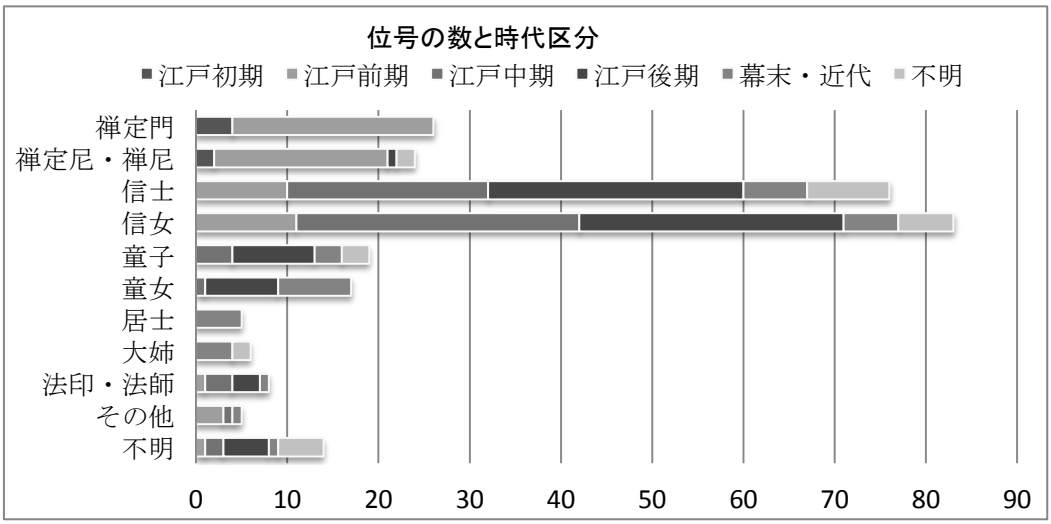
４．位号にみる被供養者の構成

戒名に添えられた「位号」は、前期は「禅定門・禅定尼」、中期から後期は「信士・信女」が主流で最も多く、幕末期からみられる「居士・大姉」は少数である。

文字数は、初期～前期までは戒名の２文字か、道号２文字が上につく４文字、中期からは大人は４文字、後期からは院号がつく７文字の戒名もみられるようになる（注6）。

表３　戒名に添えられた位号の内訳と時代区分

位号銘	初期	前期	中期	後期	幕末明治	不明	計
禅定門	4	22					26
禅定尼・禅尼	2	19		1		2	24
信士		10	22	28	7	9	76
信女		11	31	29	6	6	83
居士					5		5
大姉					4	2	6
法印・法師		1	3	3	1		8
童子			4	9	3	3	19
童女			1	8	8		17
その他		3	1		1		5
不明		1	2	5	1	5	14



被供養者の男女差は、前期までやや男性が多く、中期は女性が多いが、全体として大

きい差は見られず、供養に際しての男女の差は、成人・子供ともにない。

子供の「童子・童女」の位号が見られるのは、江戸中期前葉の享保 13 年からで、少子化に伴い、子供が家の跡取りとして大事にされると共に、小児死亡も多かったと推測される。そして、さらに「家の墓」の性格が強くなる幕末明治期になると、その三分の一が子供の位号となる（注 5）。

表 4　位号から見た時代区分別の男・女・子供の被供養者数

	成人男性	成人女性	子供		不明
位号	禅定門・信士・居士・法印・法師・善男・院号のみ	禅定尼・禅尼・信女・大姉。不明のうち「妙」のある戒名	童子	童女	
江戸初期	4	2			
江戸前期	36	30			1
江戸中期	26	32	4	1	1
江戸後期	31	31	9	8	4
幕末・近代	14	10	3	8	1
不明	9	11	3		4
計	120	116	19	17	11

不明のうち「妙」のある戒名（中期 1 後期 1 不明 1）成人女性に算入

５．墓塔の形態の変遷

墓塔の形態を図 2 のように分類して、表 5 の通り、時代ごとに集計した。

板碑型と角柱型は、本体塔身部の側面が長方形の石塔を「角柱型」、背面が荒彫で舟底状を呈する石塔を「板碑型」とし、正面の形でⅠ～Ⅶに細分類した。

有像の石塔は、丸彫型と光背型に分け、光背型は、正面が舟形で背面が板碑型と同様に舟底状のものをⅠ型、正面が舟形または隅丸などで側面が角柱型と同様のものをⅡ型に細分類し、その他は宝篋印塔と無縫塔、五輪塔（一部）とした。

図 2　墓塔の形態分類例

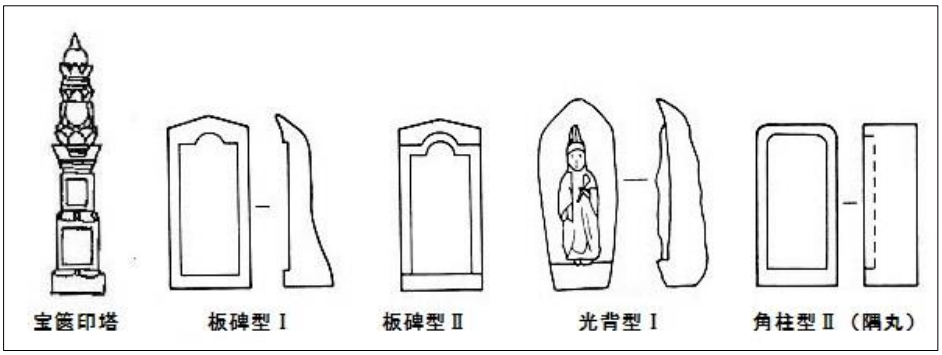
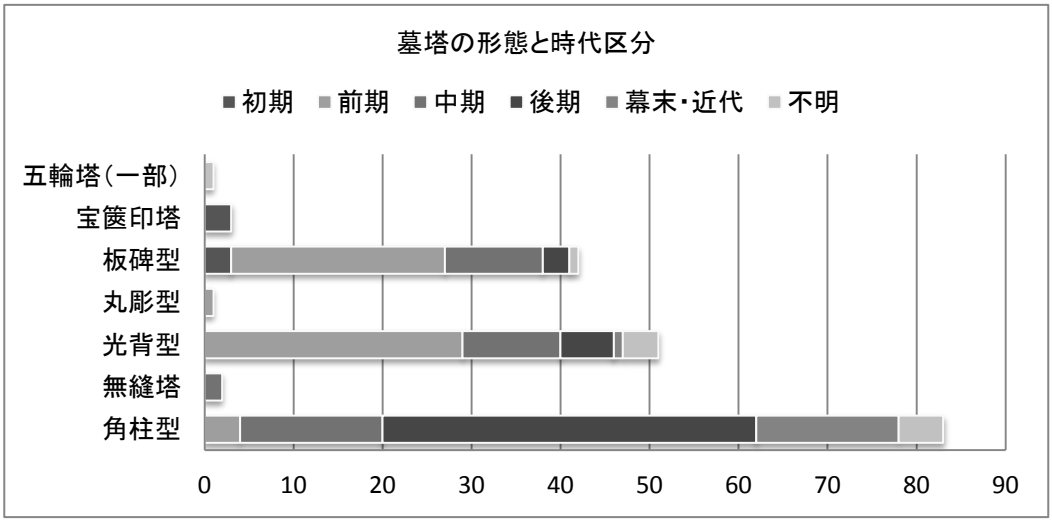


表５　墓塔の形態と時代区分別の基数

形態			初期	前期	中期	後期	幕末近代	不明	計
五輪塔（一部）								1	1
宝篋印塔			3						3
板碑型	Ⅰ	上部半円状凹付		3					3
	Ⅱ	上部二重の半円状凹付	3	7				1	11
	Ⅲ	舟形		1	1				2
	Ⅳ	駒形		11	5				16
	Ⅴ	櫛形		1	2				3
	Ⅵ	隅丸			3	3			6
	Ⅶ	不明（欠損）		1					1
板碑型計			3	24	11	3	0	1	42
丸彫型				1					1
光背型	Ⅰ	舟形（背面舟底状）		29	10			4	43
	Ⅱ	舟形・隅丸（角柱状）			1	6	1		8
光背型計			0	29	11	6	1	4	51
無縫塔					2				2
角柱型	Ⅰ	平頭					2		2
	Ⅱ	隅丸		1	15	32	4	2	54
	Ⅲ	櫛形			1				1
	Ⅳ	尖頭				9	4	1	14
	Ⅴ	台状頭				1	5		6
	Ⅵ	駒形		2					2
	Ⅶ	笠付		1			1		2
	Ⅷ	不明（欠損）						2	2
角柱型計			0	4	16	42	16	5	83
総計			6	58	40	51	17	11	183



（1）江戸初期の宝篋印塔

近世庶民の墓塔や講の供養の石塔を建てるようになるのは、寛文元年（1661）以降の江戸前期からであるが、下高野では、それより早い寛永 18 年（1641）・正保４年（1647）・承応４年（1655）の銘を持つ３基の宝篋印塔が建てられている。

このうち、承応塔（4-10*）は、相輪上部の宝珠・九輪を欠くがほぼ完全な形で、この時期の形態を知る上でも重要な資料である。寛永塔（5-5）は笠部とその上の相輪を失っていて、代わりに中世の宝篋印塔笠部が載せてある。正保塔（4-9）は笠部が二つあり、ひとつは寛永の塔のもので、倒れた際の復元時にとり違えた可能性がある。

同時代の類似した宝篋印塔は、下高野の東隣の先崎村の地蔵尊境内にも「先崎城主墓石」と伝えられる慶安３年（1650）銘２基と寛文２年（1662）銘の計３基があり、戦国期終焉後も、引き続き、村の中心的役割を果たした人物の墓塔と考えられる。

下高野の宝篋印塔３基も、江戸初期、近世の村として成立する過程で、「草分け」となった先代たちを供養したものであろう。　　（*以下、群と No.を略す）

図３　江戸初期の宝篋印塔

塔身「ア（種字）真如」
基礎「寛永十八辛己／道宥禅定門／六月十四日／本覚位」

5-5　寛永 18 年（1641）銘

塔身「ア（種字）月照道真」
基礎「正保四暦丁亥／禅定門霊位九月十日／孝子／［　　］」

4-9　正保４年（1647）銘

塔身「バ（種字）」
基礎「閉眼已時／秋盛□恵禅定門／不生位承応四年宿月十七日」

4-10　承応４年（1655）銘

（2）初期～前期の板碑型塔

初期は、明暦２年（1656）から板碑型塔が建てられ、前期の寛文・延宝期まで続く。形態的にはⅡ類の定型が主流で、時代が下ると、上部枠がⅠ類のように簡略化され、さらにⅣ類（駒形）などへ変化し、中には２名連記の双式の板碑型も見られる。

図４　板碑型塔の事例

2-17　板碑型Ⅰ 元禄９年（1696）銘 「妙教禅定尼」	2-16　板碑型Ⅱ 明暦２年（1656）銘 「□□禅定尼」	2-14　板碑型Ⅱ（双式） 寛文６年「嘔目如庭」 元禄３年「桂月通雲」	2-8　板碑型Ⅳ（双式） 享保 10 年（1725）銘 「浄如妙證信女・了敬信女」

（３）前期～中期の有像の光背型塔と角柱型塔

寛文７年（1667）までは宝篋印塔と板碑型の文字塔のみであったが、前期の寛文８年から、仏像を彫り込んだ光背型石塔が数多く造られ、板碑型を凌駕する。硬質の安山岩に丁寧に彫刻され、保存状態も良い優品も多い。（「７．像容と種字の変遷」で詳述）

丸彫型は、寛文 11 年（1671）の地蔵像（3-2）の１基で、しっかりした彫りの立像であるが、残念ながら、頭部が失われている。

前期の角柱型では、寛文 12 年（1672）銘のⅦ類（笠付角柱型）があり、総高 146 ㎝、両側面に蓮華浮彫を施した威厳ある石塔（4-1）である。また、天和 2 年（1682）銘の石塔（5-17）は、この時期では珍しいⅥ類（駒形）である。

（４）中期～後期の隅丸角柱型塔と無縫塔

中期から後期にかけて主流になるのは角柱型である。中でもⅡ類の隅丸角柱型で、一寸位の幅の額縁を彫り残して窪ませ銘文を刻んだものが多い。

これらは、凝灰岩など軟い石質の石を一定規格の大きさで切り出した角柱型石材を加工しているため、風化崩壊しやすく、銘が読めないものも見られ、また有像の光背型塔も舟底状背面から、側面を持つ角柱のⅡ類へと変化し側面にも銘を記すようになる。

「権大僧都」「法印」銘の墓塔も、中期末から後期初頭に４基あり、うち２基は本体の下に蓮華座とスリンが付く無縫塔（10-2、10-3）、もう１基も隅丸角柱型に蓮華座とスリンがつく墓塔（10-1）で、荘厳な構造から福蔵院の住職の供養塔と推察される。

図５　前期・中期・後期初頭の光背型塔・角柱型塔・無縫塔

4-3 光背型Ⅰ 享保３（1718）	4-1 角柱型Ⅶ 寛文 12（1672）	5-17 角柱型Ⅵ 天和２（1682）	5-18 光背型Ⅰ 寛文８（1668）	10-2　無縫塔 延享元（1744）	10-1　角柱型Ⅱ 天明元（1781）

（５）後期～幕末・明治期の「家の墓」

中期後葉から後期にかけて、ほとんどが総高 60 ㎝ぐらいの角柱型Ⅱ（隅丸）類に定型化されていく中、後期末から幕末・明治期にかけて、蓮華座とスリン付の総高 90 ㎝以上の角柱型塔が十数基ほど出現してくる。

複数の戒名を刻み、種字の代りに家紋を入れる墓塔も見られ、個人の供養墓から各家の墓へと、性格が大きく変化していく。

明治期には、中台に苗字を大きく記した背丈以上の高さの墓塔も見られ、この墓地で最終の明治 30 年（1897）銘を持つ笠付角柱型塔（14-2）は、総高 2.4mの大型の「家の墓」である。

写真１　14-2　14-1　13-1 の大型の「家の墓」

（６）中世石塔の残欠

3-9 は中世五輪塔の火輪部、また 5-5 の宝篋印塔の笠部は中世宝篋印塔の笠部である。

下高野では、天神社近くの畑から文正２年（1467）銘ほか７基の武蔵式板碑が見つかっており（注 7）、これらの板碑と共に、中世のムラの姿を知る資料として貴重である。

写真２　3-9 五輪塔火輪部　5-5 宝篋印塔笠部

表 6　像容の変遷

像容	初期	前期	中期	後期	幕末近代	不明	計
阿弥陀如来		8					8
地蔵菩薩		2	2	2		2	8
聖観音菩薩		12	1			1	14
勢至菩薩		4					4
大日如来		2					2
如意輪観音		2	8	4	1	1	16
蓮華文様	2	8	2				12
なし	4	20	27	45	16	7	119

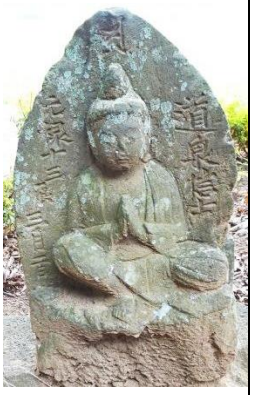
図 6　光背型塔の像容の事例

5-3　阿弥陀如来像
貞享 3（1686）禅定門

2-1　地蔵菩薩像
宝永 3（1706）禅定門

3-8　聖観音菩薩像
元禄 3・延宝 3 禅定尼

14-6　勢至菩薩像
宝永 3（1706）信士



17-8　勢至菩薩坐像
元禄 13（1700）信士

12-1　大日如来坐像
元禄 14（1701）法師

8-1　如意輪観音像
安永 5（1776）信女

1-8　如意輪観音像
文化 9（1812）童女

６．像容の変遷と種字

この墓地では 52 基が仏像を刻んだ有像塔で、前期が 30 基、中期が 11 基と前期が多い。仏像の像容は表 6 の通りで、前期は聖観音菩薩像と阿弥陀如来像、中期は如意輪観音像を刻んだ墓塔が多い。

また、初期から中期の板碑型などの文字塔 12 基には、蓮華文様が施されている。

このうち、勢至菩薩像４基（17-5 など）と大日如来像２基（12-1、16-9）には、すべて禅定門・信士・法師の男性の位号が付されている。

阿弥陀如来像では８基中１基（5-3）、聖観音菩薩像では 14 基中 11 基に禅定尼・信女の位号が、さらに如意輪観音像 16 基にはすべて禅定尼・信女・童女の女性の位号が付けられている。また、享保 13 年（1728）以後の中～後期の地蔵菩薩像３基（3-6、9-4、14-12）は、童子・童女の子供の位号であり、被供養者の性別と成人・子供の別に、尊像の像容が選択されている。

表 7　種字と像容との対応

像容	種字								
	ア	ア・カ	カ	アン	キリーク	サ	バン	なし	不明
阿弥陀如来	3				2			2	1
地蔵菩薩	2		3					1	2
聖観音菩薩	10					1			3
勢至菩薩	3				1				
大日如来	2								
如意輪観音	7					6		2	1
蓮華文様	9				1			2	
なし	91	2	2	1			1	15	7
計	127	2	5	1	4	7	1	22	14

墓塔の多くには「種字」、すなわち仏尊を象徴する梵字一字が上部に刻まれている。

福蔵院墓地では、全墓塔の８割に種字があり、その９割が「ア」であった。

「ア」は胎蔵界大日如来、「キリーク」は阿弥陀如来、「カ」は地蔵菩薩、「サ」は観音菩薩、「サク」は勢至菩薩を表すが、本調査では像容と対応している事例は少ない。

「ア」が大日如来像以外でも多いのは、「阿字本不生」の根本原理からである。(注 8)

初期の宝篋印塔３基では、「ア」が２基、金剛界大日如来を表わす「バン」は１基（4-10）で、「バン」は全墓塔中唯一である。

７.「置字」の変遷

戒名と位号の下に加えられる「置字」は、位牌を総称する言葉で、下文字ともいう。「霊位」が多いが、今回の調査では「不生位」「本覚位」「帰寂位」などもあった。

このうち僧侶に付けられる不生位は前期中心に 14 基あり、本覚位は初期の最初の宝篋印塔（5-5）のみに、帰寂位は前期初頭の阿弥陀像塔（5-18）のみに付けられている。

置字は、時代が下ると省略され、幕末以降はほとんど付けられなくなる。

また、戒名の上に付けられる「頭書」（冠字、上文字）は、後期の「法印権大僧都」の隅丸角柱型塔（10-1）に「贈」が付くのみで、他にはなかった。

表 8　置字の表記の変遷

置字	初期	前期	中期	後期	幕末近代	不明	計
不生位	1	10	1	1		1	14
不生位・霊位		1	1				2
本覚位	1						1
霊位	4	22	8	10	1	2	47
霊		5	4	4		1	14
帰寂位		1					1
覚位			1				1
位		1		5	3		9
各霊						1	1
なし		18	24	27	12	4	85
不明			2	3	1	2	8

８．年号の表記の変遷

「年」の表記については、元号+数字＋干支の下に通常「年」が記されるが、各時期とも記されないものも多い。

「暦」・「天」・「星」・「歳」などの表記もみられ、特に「天」の表記は 38 例あり、うち半数は前期であった。「星」は５例で、そのうち４例は後期、「暦」は初期の宝篋印塔１例（4-9）、「歳」は後期に１例（8-10）あった。

表 9　「年」表記の変遷

年表記	初期	前期	中期	後期	幕末近代	不明	計
暦	1						1
年	4	25	13	18	6	1	67
天		19	10	8	1		38
星			1	4			5
ノ		1					1
歳				1			1
なし	1	13	15	18	10		57
不明			1	2		10	13

９．麦丸地区の石塔墓地の調査との比較

表10は2016年に実施した麦丸地区の「セイマイ前墓地」の墓塔調査との比較である。

墓塔の初出は、下高野は宝篋印塔３基、麦丸は五輪塔２基で形態は違うが、他の墓塔とは別格の石塔であり、ムラの草分けの墓塔として特別の尊崇対象であったと思われる。

年銘は、両墓地とも前期と後期にピークがあり、麦丸は個人か２名の供養墓にとどまるが、下高野は後期後半から複数名連記による被供養者数の増加が、また幕末以降は大型の「家の墓」が見られるようになる。これらの被供養者に男・女の差はなく、後期以降は子供が対象になって増加する傾向も同じであった。

形態は前期が有像の光背型と板碑型が多く、中期から隅丸角柱型が増え、後期以降はほとんどが、隅丸を含む角柱型に画一化されてくる。

像容は、共に聖観音・阿弥陀・女性供養の如意輪観音・子供用の地蔵などが多い。

表 10　下高野と麦丸の墓地調査結果の比較

		下高野地区の福蔵院墓地	麦丸地区の「セイマイ前墓地」
構成		3 家 18 軒　＋　僧侶	2 家 9 軒（山頂に寛文期石塔 2 基）
基数（最多時期）		183 基（前期 58・後期 51）	173 基（前期 58・後期 50）
被供養者数（〃）		283 名（前期 68・後期 83）	200 名（前期 61・後期 50）
男女・子供別数		男 120　女 113　子供 36	男 72　女 71　子供 26
最古最終年銘塔		寛永 18（1641）宝篋印塔	万治 3（1660）五輪塔
最新最終年銘塔		明治 30（1897）笠付角柱型 家墓	明治 27（1894）隅丸角柱 童子墓
形態	前期	光背型 29　　板碑型 24	光背型　34　　板碑型 15
	中期	隅丸角柱型 15　光背型 11	隅丸角柱型 23　光背型 16
	後期	隅丸角柱型 32　角柱型 10	隅丸角柱型 18　角柱型 6
像容	前期	聖観音 12　阿弥陀 8　勢至菩薩 4	如意輪 12　聖観音 10　阿弥陀 6
	中期	如意輪 8　地蔵 2　聖観音 1	如意輪 7　聖観音 5　地蔵 6
	後期	如意輪 4　地蔵 2	如意輪 2　地蔵 2　他 1

図 7　下高野と麦丸の墓地石塔群

下高野の福蔵院墓地４群
正保・承応の宝篋印塔、寛文の笠付角柱塔など

麦丸のセイマイ前墓地Ｂ群
万治・寛文の五輪塔・寛文の板碑型塔など

おわりに

近世墓石は、文書史料と共にその地域史を知る上で重要な資料であるが、昨今は、ムラの墓も家ごとに区画された単墓制の現代墓地に変わり、古い墓石は無縁塚に集積されるか、各家の区画内に入れられ、近世墓石の調査は、物理的にも、個人情報管理の点からも困難になってきている。

今回は、小澤一雄氏のご尽力と下高野の旧家の方々のご厚意で、福蔵院墓地の全墓塔について、全銘文の記録を含む悉皆調査を行うことができた。

さらに、麦丸地区の石塔墓地の調査と合わせ、八千代市内で複数の石塔墓地調査が実施できたことにより、近世の村の成立や村に暮らした人々の姿、石塔形態や戒名などの変遷、供養塔に選択された尊像や種字の種類などが、より明らかになった。

小澤一雄氏と下高野の皆さま、調査に参加した会員に、あつく御礼申し上げます。

注

1. 「両墓制の終焉」『八千代市の歴史　通史編　下』6-2-3 八千代市史編さん委員会 2008 年
2. 蕨由美「供養された江戸時代の麦丸の人々ー大日前の詣り墓とその裏山の供養塔調査からー」「『史談八千代』41 号　2016 年 八千代市郷土歴史研究会
3. 菅野貞男「下高野村の概要」・荒川好弘「下高野の神社と寺院」『史談八千代』43 号 2018 年八千代市郷土歴史研究会
4. 「墓塔」の用語は、小川浩「墓塔が語る村落の歴史と文化ー粟野地区の事例を中心にー」『鎌ヶ谷市史研究』16 号　2003 年による。なお、勝田至・編『日本葬制史』では「墓石」、岩田重則『「お墓」の誕生』では「石塔」、朽木量『墓標の民族学・考古学』では「墓標」の用語を使用している。
5. 青田博之「下高野の宗門人別帳にみる家族構成」(『史談八千代』43 号　2018 年）では、天保 11 年（1840）の人口は、112 人家数 21 軒。安政 7 年（1860）では 134 人・20 軒で、男女はほぼ同数、14 歳以下は約 3 割、平均年齢 30 歳前後であった。
6. 「禅定門・禅定尼」は本来、生前出家した人の戒名に付けられる位号。現代の真言宗の戒名の最高ランクは、「〇〇院△△□□」に居士・大姉などの「位号」が付く。△△は道号。
7. 「八千代市板碑一覧表」『八千代市の歴史　通史編　上』3-5-2 八千代市史編さん委員会　2008 年
8. 種字「ア」＝阿字には、さとりの世界を象徴した密教の根本教義「阿字本不生」の意味がある。

表 11　下高野福蔵院墓地の全墓塔の調査データ一覧表

群	墓石No.	形態	像容	種字	最終没年	戒名	位号	没年月日	戒名	位号	没年月日	置字	その他銘文	総高(cm)	本体(cm)	年表記	注
1	1	台状頭角柱型	なし	なし	1890	圓覺道隆	信士	なし	還阿妙温	信女	明治23.3.23	なし	先祖代々／立石／立石市兵エ	98	63	年	蓮華・丸スリン付
						廣運	童女	安政2.6.10	香薫	童子	安政5.2.10						
						静光	童女	明治8.4.4.	霜幻	童女	明治10.11.10						
						霜光	童女	明治17.12.□									
	2	板碑型Ⅱ	なし	アン	*	□安	禅定尼	□・酉・3.2				霊位		50	50	*	
	3	板碑型Ⅱ	なし	ア	1666	秋月	禅定門	寛文6・8・9				霊位		62	62	年	
	4	舟形光背型	聖観音立像	*	1670	妙性	禅定尼	寛文10.5.14				霊位		62	62	年	
	5	隅丸角柱型	なし	ア	1779	倡月妙印	信女	安永8・9・24				なし		63	44	天	
	6	舟形光背型	阿弥陀如来坐像	ア	1697	本願院教誉	院号のみ	元禄10・9・15				霊位		72	61	年	
	7	隅丸角柱型	なし	ア	1828	法蓮智性	童女	文政11・12・9				なし	立石氏	46	45	年	
	8	櫛形角柱光背型	如意輪観音坐像	なし	1812	了空	童女	文化9・2・朔				なし		66	52	無	
	9	平頭角柱型	なし	ア	1849	速見妙霜	信女	嘉永2・11・10				なし		79	63	年	
2	1	舟形光背型	地蔵菩薩立像	カ	1706	道花	禅定門	宝永3・3・5				不二位*		78	65	無	*不生位？
	2	板碑型Ⅱ	蓮華線彫り	なし	1657	道桂	禅定門	明暦3・6・11				霊位		76	61	年	
	3	舟形角柱光背型	如意輪観音坐像	*	1859	不明*	不明*	安政6・5・20				不明*		75	62	無	*風化
	4	隅丸角柱型	なし	ア	1805	英光常元	信士	文化2・4・16	玄露	童女	文化・2・6・16	位		73	62	無	
	5	櫛形角柱光背型	如意輪観音坐像	ア	1781	速成妙覚	信女	天明4・6・15				霊		74	55	年	
	6	尖頭角柱型	なし	なし	1840	蓮山道光	信士	文政5・6・29	道宥	信士	天保11・6・	なし		67	67	無	
						性全	法師	天保11・6・29									
	7	舟形光背型	聖観音立像	ア	1709	妙宥	禅定尼	宝永6・7・4				なし		88	70	無	
	8	板碑型Ⅱ-2	蓮華文様	ア	1725	浄如妙證	信女	享保10・3・17	了敬	信女	享保10・7・朔	不生位・霊位		72	61	無	
	9	舟形光背型	阿弥陀如来立像	キリーク	1706	清香浄薫	善男	宝永3・2・3				不生位		86	63	無	
	10	舟形光背型	聖観音坐像	サ	1714	妙□	信女	正徳4・9・13				なし		64	46	年	
	11	隅丸角柱型	なし	ア	1815	道潤	信士	文化12・11・6				なし		67	47	無	
	12	舟形光背型	聖観音立像	ア	1707	理元智法	信士	宝永4・5・12				不生位		132	110	年	
	13	角柱型*	なし	*	*	□翁	信士	□辰・霜・29	□□	童子	□・7・22	霊位		76*	58*	年	*上部欠損
	14	板碑型Ⅱ	蓮華浮彫	なし	1689	嘔目如庭	なし	寛文6・5・6	桂月通雲	なし	元禄・3・8・23	なし		77	69	年	
	15	尖頭角柱型	なし	ア	1815	浄光相映	信士	文化13・正・2				なし		89	68	年	
	16	板碑型Ⅱ	なし	ア	1656	□□	禅定尼	明暦2・11・7				霊位		61	50	年	
	17	板碑型Ⅰ	蓮葉線彫	ア	1696	妙教	禅定尼	元禄9・5・5				霊位		67	54	年	
	18	舟形光背型*	地蔵菩薩立像	*	*	*	*	*				*		45*	36*	*	*上部破損
3	1	舟形光背型	聖観音立像	ア	1755	空山妙月	信女	宝暦5・12・23				霊位		68	49	年	
	2	丸彫型	地蔵菩薩立像	ア	1671	覚性善心	禅定門	寛文11・10・1				不生位		93*	81*	天	頭部を欠損
	3	隅丸角柱型	なし	ア	1771	破山本鏡	信士	明和8・6・29				霊位		68	56	天	
	4	舟形光背型	如意輪観音坐像	ア	1766	涼讃妙□	信女	明和3・8・18	□山妙□	信女	宝暦5・10・23	なし		68	52	年	
	5	舟形光背型	如意輪観音坐像	ア	1757	涼善妙宗	信女	宝暦7・11・10	壽覚	童子	宝暦7・12・24	霊位		68	50	無	
	6	舟形光背型	地蔵菩薩立像	*	1728	□□	童子	享保13・3・18				霊		59	43	無	*欠損
	7	舟形光背型	勢至菩薩坐像	ア	1702	浄完	禅定門	元禄15・12・20				なし		61	41	年	
	8	舟形光背型	聖観音立像	ア	1690	妙閑	禅定尼	延宝3・4・13	妙濱	禅定尼	元禄3・2・13	なし		80	66	年	
	9	五輪塔(火輪*)	なし	なし	*	*	*	*				なし		14*	14*	*	中世五輪塔笠部のみ
4	1	笠付角柱型	蓮華浮彫	ア	1672	月山道光	禅定門	寛文12・6・28				不生位		146	94	天	
	2	隅丸角柱型	なし	なし	1847	遊西	童子	天保6・1・15	智雪	童女	弘化4・12・晦	なし	深山／新右衛門	51	42	無	
	3	舟形光背型	聖観音立像	ア	1718	芳草妙嚴	禅定尼	享保3・4・19				霊		105	97	年	
	4	隅丸角柱型	なし	ア	1780	直修妙明	信女	安永3・□・21	頓悟浄□	信女	安永9・6・□	なし		63	51	無	
	5	板碑型Ⅱ	なし	ア	1719	清誉浄感	禅定門	享保4・4・28				霊位		92	92	無	
	6	隅丸角柱型	なし	ア	1767	空性道全	信士	明和4・5・2				霊位		73	60	年	
	7	駒形板碑型	なし	ア	1736	心源宗白	信士	元文1・9・29				なし		56	54	天	
	8	舟形光背型	阿弥陀如来立像	なし	1671	宗栄	禅定門	寛文11・3				なし		86	76	天	
	9	宝篋印塔*	なし	ア	1647	月照道真	禅定門	正保4・9・10				霊位	孝子／九月十日／小沢平左衛門	150		暦	笠部2個あり
	10	宝篋印塔*	なし	バン	1655	秋盛寂恵	禅定門	承応4・3・17				不生位	閉眼己時	170		年	
	11	台状頭角柱型	なし	ア	1849	蓮光院義浄道廉	信士	嘉永2・4・12				位		95	75	年	
	12	隅丸角柱型	なし	ア	1812	映光観阿	信士	文化9・7・14				なし		65	62	年	
	13	隅丸板碑型	なし	ア	1790	□芳妙蓮	信女	宝暦11・7・9	利真道譽		寛政2・12・10	なし		56	53	無	
	14	隅丸角柱型	なし	ア	1789	歓譽浄久	信士	寛政1・5・9				霊位		66	62	年	
	15	尖頭角柱型	なし	なし	1833	清潤了義	信士	文化12・8・10	霜仙院善譽妙順	信女	天保4・11・23	なし		104	65	無	蓮華・スリン付
	16	舟形光背型	如意輪観音坐像	サ	1737	英岳法樹	信女	元文2・3・3				なし		60	49	天	

5	1	隅丸角柱型	なし	カ	1794	智空	童女	寛政6・6・3				なし		53	45	天	
	2	舟形光背型	阿弥陀如来立像	*	1683	道育	禅定門	天和3・10・11				不生位		114	90	天	*欠損
	3	舟形光背型	阿弥陀如来立像	キリーク	1686	玉基圓	禅定尼	貞享3・2・24				不生位		120	96	無	
	4	舟形光背型	聖観音像立像	ア	1669	妙[香]	禅定尼	寛文9・□・4				霊位		113	86	無	
	5	宝篋印塔*	なし	ア	1641	真如／道宥	禅定門	寛永18・6・14				本覚位		77		無	基壇・基礎・塔身のみ、笠部は中世の笠部
	6	板碑型Ⅱ	なし	ア	1679	秋月	禅定門	延宝7・7・13				霊位		75	63	年	
	7	櫛形板碑型	なし	ア	1737	郭然證源	信士	享保3・2・□□	自本了源	信女	享保12・3・25	なし		72	61	無	
						圓誉清晃	信士	元文2・10・12	秋月妙清	信女	享保10・7・2						
	8	隅丸角柱型	なし	ア	1755	覺善[ ]	欠損	宝暦5・12・27	心清妙[]	欠損	宝暦11・8・[ ]	欠損		48	41	無	
	9	駒形板碑型	蓮華浮彫	キリーク	1678	道栄	禅定門	延宝2・12・25	妙讃	禅定尼	延宝6・12・21	霊位		69	57	年	
	10	隅丸板碑型	なし	ア	1791	浮泉道保	信士	延享3・6・朔	法久妙休	信女	寛延3・11・19	霊位		64	49	年	
	11	櫛形板碑型	なし	ア	1705	妙鏡	信女	宝永2・8・9	道清	信士	享保6・10・8	霊位		60	47	年	
	12	隅丸角柱型	なし	ア	1773	觀昭源眞	信士	安永2・3・[ ]	智久妙恵	信女	安永2・10・10	なし		48	48	年	
	13	駒形角柱型	なし	ア	1712	妙常	信女	正徳2・3・7				霊		57	47	年	
	14	隅丸角柱型	なし	ア	1815	如[ ]	[信]女	文化10・□・6	随[ ]	[信]女	文化12・11・26	なし		59	47	無	
	15	板碑型Ⅰ	なし	ア	1677	道休	禅定門	延宝5・2・11				霊位		69	53	天	
	16	隅丸角柱型	なし	ア	1769	秋葉	童女	明和6・7・22	春浄	童子	明和9・2・10	なし		37	37	無	
	17	駒形角柱型	なし	ア	1682	賀芳定	禅定門	天和2・4・23	妙鏡	禅定尼	天和2・5・17	不生位・霊位		124	97	年	
	18	舟形光背型	阿弥陀如来立像	なし	1668	玉葉妙春	禅定尼	寛文8・1・20				帰寂位	下高野村／傳兵衛	118	84	年	
6	1	隅丸板碑型	なし	ア	1733	唱阿常閑	信士	享保18・10・9	冬天道夢	信士	安永2・10・11	なし		57	48	年	
	2	隅丸角柱型	なし	なし	1790	春霞妙陽	信女	天明5・1・23	妙光	信女	寛政2・10・26	なし		63	51	無	
						善西	法師	延享1・11・27									
	3	舟形光背型	地蔵菩薩立像	なし	1720	連雪道寒	信士	享保5・12・13				なし		57	46	年	
	4	隅丸角柱型	なし	なし	1780	臨霜道休	信士	*	法雲妙貞	信女	*	なし		63	51	無	*風化
						了清	信士	安永9・1・18									
	5	隅丸角柱型	なし	*	1824	*	*	文政7・11・15	浄阿妙*	*	*	*		136	67	年	*風化／蓮華・スリン・中台付
	6	駒形板碑型	なし	ア	1682	道照	禅定門	天和2・5・19				霊		67	52	年	
	7	板碑型*	なし	*	1666	道誉	禅定門	寛文6・2・8				霊位		50*	40*	年	*上部欠損
	8	駒形板碑型	なし	ア	1714	臨相浄薫	信士	正徳4・11・16				位		71	52	天	
	9	舟形板碑型	なし	ア	1707	宗譽	信士	宝永4・8・9				不生位		62	46	天	
7	1	隅丸角柱光背型	如意輪観音坐像	ア	1793	晴霞妙了	信女	寛政5・3・22				霊位		80	65	星	
	2	舟形光背型	如意輪観音坐像	ア	1739	浄三性應	信女	元文4・4・10				なし		54	46	無	
	3	板碑型Ⅱ	なし	ア	1669	妙薫	禅定尼	寛文9・9・12				霊位		68	58	天	
	4	隅丸角柱型	なし	ア	1788	即心浄應	信士	天明8・6・朔	寒月道悟	信士	天明6・11・24	なし		51	40	無	
	5	隅丸角柱型	なし	ア	1813	秋善妙應	信女	文化10・8・25				なし		50	50	年	
	6	隅丸角柱型	なし	なし	1764	清雲	信士	宝永7・5・17	周圓清	信女	明和元・9・18	なし		60	50	無	
	7	隅丸角柱型	なし	ア	1794	道喜□	*	寛政6・6・□	秋覚妙了	*	天明2・7・□	*		59	51	無	*下部風化
	8	駒形板碑型	なし	ア	1733	白峰理心	信女	享保18・9・2				なし		55	46	天	
	9	櫛形板碑型*	なし	ア	1708	誠□	信士	宝永5・11・9				不生位		58	47*	天	*上部角欠損
	10	駒形板碑型	なし	ア	1744	霜鎮妙祐	信女	延享1・11・15				なし		49	40	天	
	11	平頭角柱型	なし	ア	1841	帰清浄香	信士	天保12・12・12	夏月妙貞	信女	天保2・5・11	位	深山	94	63	無	蓮華・スリン付
	12	尖頭角柱型	なし	ア	1812	得勝院浄刹下翁	信士	文化9・4・22				なし	深山	99	63	年	蓮華・スリン付
8	1	舟形光背型	如意輪観音坐像	サ	1776	芙香妙演	信女	安永5・8・朔				なし		89	69	無	
	2	舟形光背型	聖観音立像	ア	1718	妙性	禅定尼	享保3・12・29				なし		62	47	無	
	3	台状頭角柱型	なし	ア	1874	詠覚道教	信士	文政13・□・28	西念妙珖	信女	明治7・10・28	位		84	65	年	
	4	駒形板碑型	なし	ア	1731	清隻道光	信士	享保16・6・13				不生位		77	68	星	蓮台付
	5	板碑型Ⅱ	なし	なし	1667	道栄	禅定門	寛文7・3・5				なし	七蔵	80	73	年	蓮葉浮彫
	6	舟形角柱光背型	如意輪観音坐像	サ	1741	葉散妙琳	信女	寛保元・10・17	妙鏡	信女	寛保元・10・17	なし		63	57	無	
	7	舟形角柱光背型	如意輪観音坐像	サ	1785	□勝妙善	信女	天明5・3・14				霊位	下高野村／定エ門	85	74	天	
	8	隅丸角柱型	なし	ア	1777	明廣得道	信士	安永6・2・朔	幻夢	童子	安永3・6・12	霊位		74	60	年	
	9	隅丸角柱型	なし	ア	1763	覚了一夢	信士	宝暦13・5・17				霊位		76	63	年	
	10	尖頭角柱型	なし	ア	1832	経翁院觀根定勝	信士	文政10・9・23	連花院觀阿妙智	信女	天保3・8・10	なし	小澤	97	66	歳	中台付
9	1	駒形板碑型	なし	ア	1716	妙養	信女	享保元・7・10				なし		58	46	天	
	2	隅丸角柱型	なし	ア	1829	宝[ ]	*	享和3・4・□	静[ ]	*	文化12・69・□	*		80	66	無	*下部剥落
	3	隅丸角柱型	なし	ア	1824	福聚明海	信士	文政8・1・11	圓月妙音	信女	文化4・8・13	霊位		80	65	年	
	4	舟形角柱光背型	地蔵菩薩立像	ア	1786	諒幼	童子	天明6・10・19				霊		57	47	年	

9	5	隅丸角柱型	なし	ア	1786	雄貞	権大僧都法印	天明6･8･19				位		52	43	年	
10	1	隅丸角柱型	なし	ア	1781	快壽	法印権大僧都	天明元･5･18				不生位	贈	99	64	天	蓮華座･スリン付
	2	無縫塔	なし	ア	1744	源壽	権大僧都法印	延享元･3･20				覚位		98	53	年	蓮華座･スリン付
	3	無縫塔	なし	ア	1763	宥宣	法印	宝暦13･8･朔				霊位		78	41	年	蓮華座･スリン付
11	1	隅丸角柱型	なし	ア	1817	源功院對悦□興	信士	*□･□･24	敬空	童子	文化14･8･□	なし		80	66	天	*表面剥離
	2	隅丸角柱型	なし	ア	1817	桂章院即成妙雲	信女	文化11･8･17	亍禾容	童子	文化14･8･2	なし		85	68	*	
	3	隅丸角柱型	なし	ア	1862	常唱院心月道木	信士	文久2･10･21	晴雲蓮風妙薫	信女	嘉永2･5･朔	なし	立石傳左エ門	80	66	天	
12	1	舟形光背型	大日如来坐像	ア	1701	徳小	法師	元禄14･10･19				霊位		66	51	天	蓮台付
	2	駒形板碑型	なし	ア	1680	道秀	信士	延宝8･9･29	妙覚	信女	延宝3･10･26	なし		59	45	無	
	3	隅丸板碑型	なし	ア	1788	□念了智	信士	安永3･□･27	冷空妙雪	信女	天明8･□･□	なし		52	40	*	
	4	隅丸角柱型	なし	ア	1784	妙眞	信女	天明4･4･8	晴雲妙安	信女	天明3･5･9	なし		67	51	無	蓮華座･スリン付(逆位)
	5	尖頭角柱型	なし	ア	1838	實圓浄翁	信士	天保9･7･9	覺心實相	信女	文政8･1･13	なし		84	66	天	
	6	隅丸角柱型	なし	ア	1822	諦幻	童子	天明6･10･19	彦順	童子	文政5･11･7	なし		48	39	年	
	7	隅丸板碑型	なし	ア	1750	瑣證妙果	信女	寛保元･11･5	春覚道智	信士	寛延3･2･25	なし		49	40	天	
	8	駒形板碑型	なし	ア	1705	妙閑	信女	元禄5･8･8	妙誉	信女	宝永2･5･21	なし		49	40	ノ	
	9	隅丸板碑型	蓮華座浮彫	ア	1768	速證妙圓	信女	明和5･4･4	秋月道詠	信士	寛延1･8･10	なし		44	36	天	
	10	板碑型Ⅱ	蓮華浮彫	ア	1659	妙誉	禅定尼	万治2･6･13				霊位		88	71	年	
13	1	台状頭角柱型	なし	*	1861	慈性院賢融可	居士	文久1･5･24	具性院挙月妙融	大姉	安政4･3･□	なし	施主／傳右衛門	120	90	無	*風化／猫足スリン･中台付
						西地院賢誉良應	居士	文久1･5･16	真地院貞誉妙□	大姉	なし						
	2	舟形板碑型	なし	ア	1746	實相成果	信女	延享3･10･9	涼月妙慶	信士	なし	なし		52	42	無	
	3	舟形光背型	如意輪観音坐像	サ	不明	霜月善鏡	禅定尼	[　]12･23				なし		52	42	不明	
	4	尖頭角柱型	なし	ア	1848	顯成院真了義	信士	文政1･12･25	顯涼院蓮妙光	信女	嘉永1･7･4	霊位		112	72	無	中台付
	5	隅丸角柱型	なし	ア	不明	法□	□子	□亥･5･14	幼薫	童□	文政[　]	なし	傳右衛門	73	53	*	
	6	隅丸角柱型	なし	ア	1714	妙安	信女	正徳4･12･24				霊位		66	50	年	
	7	舟形光背型	如意輪観音坐像	ア	1693	妙範	禅定尼	元禄6･2･29				霊		66	52	年	
	8	隅丸角柱型	なし	*	1771	*	信士	明和8･2･19	*	信士	*	*		50	41	*	*風化崩壊
	9	隅丸角柱型	なし	なし	1813	妙善清	信女	文化10･5･5				位		58	44	星	
	10	櫛形角柱型	なし	ア	1737	元覺法性	信士	元文2･10･朔				霊	立石傳右エ門	82	62	無	
	11	尖頭角柱型	なし	ア	1825	素光院觀蓮自浄	信士	文政8･4･20	光照院自覺心戒	信女	文化2･3･朔	霊位	施主／傳右衛門	90	70	年	
	12	隅丸角柱型	なし	ア	1766	梅顔妙祐	信女	明和3･□･13				なし		69	51	天	
	13	隅丸角柱型	なし	ア	1784	高顯院日[illegible]	信士	天明4･10･15				位		92	68	星	
	14	尖頭角柱型	なし	ア	1805	了善	法師	文化2･6･11	普觀院恵日眞光	信女	享和2･6･11	霊位	施主／傳右衛門	98	69	年	蓮華座付
	15	隅丸角柱型	なし	なし	1780	松壽院晴雲妙照	信女	安永9･3･25				霊位		84	67	天	
	16	舟形光背型	如意輪観音坐像	サ	1727	薬敢妙性	信女	享保12･□･朔				なし	立石傳右エ門	60	47	無	
	17	駒形板碑型	なし	なし	1691	長誉照日		元禄4･5･27	妙誉	信女	元禄4･10･12	なし		60	47	無	
14	1	台状頭角柱型	なし	ア	1888	高德院泰賢道壽	居士	明治13･7･28	善性院賢光妙蓮	大姉	慶応3･7･22	なし	立石／立石市兵エ	178	87	年	蓮華座･スリン･中台付
						慈眼院實相妙蓮	大姉	明治28･3･29	幸德院眞阿道隆	居士	文久2･7･25						
						蓮葉院露香相	大姉	明治12･3･22	梅薫	童女	天保6･1･18						
						霜顔妙鏡	童子	明治4･12･27	露薫	童女	明治21･11･15						
	2	笠付角柱型	なし	(家紋)	1897	廣德院智光道諦	居士	明治30･9･16	廣照院寂光妙譲	大姉	*年銘なし	なし	立石／明治32･9･1／立石藤十郎建之	236	80	年	蓮華座･猫足スリン･中台付
	3	舟形光背型	如意輪観音坐像	なし	1750	芳鶯妙歓	信女	寛延4･1･19				なし		62	46	天	
	4	駒形板碑型	蓮葉線彫	ア	1676	道教	禅定門	延宝4･12･2				霊位		58	45	天	
	5	隅丸角柱型	なし	ア	1786	圓明源信	信士	天明1･4･3				霊位		72	60	年	
	6	舟形光背型	勢至菩薩立像	キリーク	1706	源空卓善	信士	宝永3･1･15				霊位		78	63	無	
	7	尖頭角柱型	なし	ア	1828	浄空院晴山法遊	信士	文政8･3･10	清知院心善法貞	信女	文政11･4･24	なし	立石	136	70	星	蓮華座･スリン･中台付
	8	舟形光背型	聖観音像立像	ア	1685	妙永	禅尼	貞享･6･24				不生位		76	59	天	
	9	駒形板碑型	なし	ア	1714	妙秋	信女	正徳4･9･4				霊		68	54	年	

14	10	隅丸角柱型	なし	ア	1772	観桃妙詠	信女	明和5・2・2□	□□妙性	信女	明和9・5・25	霊		68	48	無	
	11	隅丸角柱型	なし	ア	1806	了寛	童子	享和・1・9・17	素雪妙浄	信女	文化3・11・3	霊		79	64	無	
						妙恵	童女	文化3・8・4									
	12	櫛形角柱光背型	地蔵菩薩立像	カ	1797	智妙□	童女	寛政6・5・26	智光	童子	寛政9・7・11	霊		84	68	無	
	13	台状頭角柱型	なし	(家紋)	1838	豐恵院義譲英倫	信士	天保9・8・6	智法院貞順妙宥	信女	文政13・7・10	なし	立石藤右衛門	141	75	無	蓮華座・スリン・中台付
15	1	角柱型*	なし	*	*	[ ]門	信士	□・□・10	[ ]	信女	□・2・□	なし	立石長兵エ	66*	48*	*	*上部欠損
	2	尖頭角柱型	なし	ア	1850	蓮山道鏡	信士	文政3・6・29	梅光妙仙	信女	嘉永3・2・29	なし	立石長兵エ	87	67	無	
	3	板碑型Ⅱ	蓮葉線彫	ア	1665	妙□	禅定尼	寛文5・10・7				霊位		80	65	天	
	4	板碑型Ⅰ	蓮葉浮彫	ア	1680	道休	禅定門	延宝8・□・9				霊位		70	57	天	
	5	駒形板碑型	蓮葉浮彫	ア	1696	浄圓	禅定門	元禄7・4・22				霊位		74	58	年	
	6	駒形板碑型	なし	ア	1717	卓善	信士	享保2・12・13	妙讃	信女	正徳4・4・28	霊位		71	55	天	
	7	隅丸角柱型	なし	カ	1856	了吽	禅定門信士	安政3・11・14	是山法性	童子	文政11・12・21	なし	立石長兵エ	68	50	無	
16	1	隅丸角柱型	なし	ア	1768	浄安清	信士	宝暦2・1・12	祐観妙菓	信女	明和5・8・12	なし		82	66	年	
	2	隅丸角柱型	なし	*	1829	觀山是空	信士	文政12・12・10	觀樹妙空	信女	記載なし	なし		80	64	年	*上部欠損
	3	隅丸角柱型	なし	ア	1812	秋月道光	信士	文化9・8・19				なし		74	12	天	
	4	隅丸角柱型	なし	ア	1831	春山道栄	信士	明和5・2・15	妙薫	信女	天保2・6・26	位		68	50	年	
	5	舟形光背型	聖観音像立像	*	1682	[ ]	禅定尼	天和2・12・19				霊位		68	55	年	*上部欠損
	6	尖頭角柱型	なし	ア	不明	道順	信士	文政□・4.□	妙順	信女	*不明	各霊		88	65	*	*上部欠損
	7	舟形光背型	聖観音像立像	ア	1698	往誉妙生	禅尼	元禄11・3・17				霊位		68	57	無	
	8	隅丸角柱型	なし	ア	1775	而生現覺	信士	安永4・8・4				なし		59	46	年	
	9	舟形光背型	大日如来立像	ア	1702	浄薫	禅定門	元禄15・4・9				なし		70	56	年	
	10	舟形光背型	聖観音像立像	ア	1698	妙寶	禅定尼	元禄11・6・20				霊位		74	58	無	
	11	舟形光背型	地蔵菩薩立像	カ	*	*	*	*				*		78	60	*	*風化剥落
	12	尖頭角柱型	なし	(家紋)	1839	春山了善	信女	文化12・2・14	青蓮妙智	信女	天保10・6・5	なし		88	65	天	
						幻映	童女	文政4・6・22	西遊清	信士	文化14・11・8						
17	1	隅丸角柱型	なし	ア	1799	西□	信士	寛政10・□・27	妙縁	信女	寛政11・4・25	霊位		49	40	無	
	2	隅丸角柱型	なし	ア	*	*摩耗	信士	[ ]・16	*摩耗	信女	[ ]・19	霊		58	50	*	*摩耗
	3	舟形光背型	阿弥陀如来立像	ア	1670	道界	禅定門	寛文10・11・7				なし		72	60	天	
	4	隅丸角柱型	なし	ア	1769	榮樹道讃	信士	延享2・6・25	要法妙臨	信女	明和6・4・23	霊		60	49	無	
	5	舟形光背型	勢至菩薩立像	ア	1674	覚□善光	禅定門	延宝2・11・12				なし		67	52	年	
	6	舟形光背型	如意輪観音坐像	ア	1669	□□	禅定尼	寛文9・10・14				なし		68	55	天	
	7	舟形光背型	阿弥陀如来立像	ア	1709	道照	禅定門	宝永6・9・朔				なし		80	70	天	
	8	舟形光背型	勢至菩薩坐像	ア	1700	道泉	信士	元禄13・3・2				なし		56	40	無	
	9	舟形光背型	聖観音像立像	*	*	如賢[ ]	*	*				不生(位)		59	59	*	*周囲欠損
	10	隅丸角柱型	なし	ア	1837	涼山明照	信士	文化13・8・6	妙観清	信女	天保8・11・4	なし	立石庄左エ門	76	60	無	
	11	尖頭角柱型	なし	ア・カ	1867	法性了達	信士	天保14・9・15	壽覺妙臨	信女		なし	立石庄左エ門	79	63	無	
						寂春	童女	天保14・3・23	葉散	童子	慶応3・10・10						
	12	隅丸角柱型	なし	ア・カ	1865	観雪智性(18歳)	信士	慶応1・11・14	観空即道(21歳)	信士	文久2・3・17	なし	立石庄左エ門	83	66	無	
						涼松	童女	安政3・6・12									

写真３　調査風景

2018.6.18　１～２群の調査

2018.12.20　13～14 群の調査